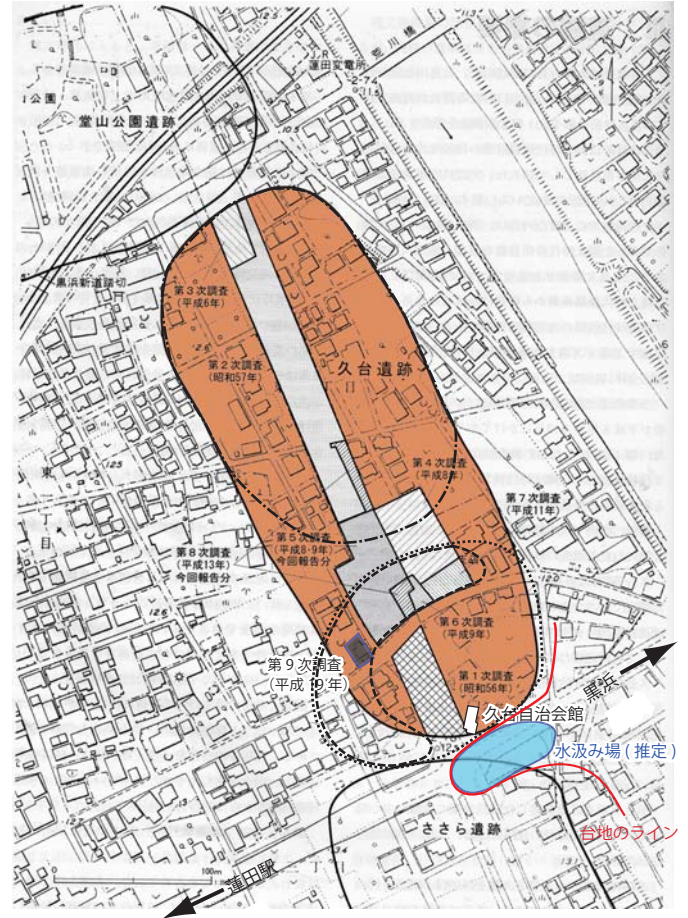


# 久台遺跡 (きゅうだいせき)

久台遺跡は、国道 122 号バイパス久台交差点の北側、東 2 丁目から 3 丁目に所在します。遺跡の規模は東西約 150m、南北約 350m、面積約 46,000 m<sup>2</sup>を測り、遺跡南側（久台交差点付近）は谷に面し、ここが人々の水汲み場になっていたことが想像されます。

現在までに縄文時代後期～晩期の住居跡 45 軒、土坑約 150 基、古墳時代前期の方形周溝墓 5 基、平安時代の住居跡 1 軒などが検出され、縄文時代晩期の 4 号住居跡からは県内 2 例目となる動物型土製品が、古墳時代初頭では市内初となる方形周溝墓が発見されています。



## 縄文時代の久台遺跡のムラ

古くは旧石器時代から痕跡は確認されていますが、ムラとしては縄文時代後期～晩期に大きな集落が営まれます。

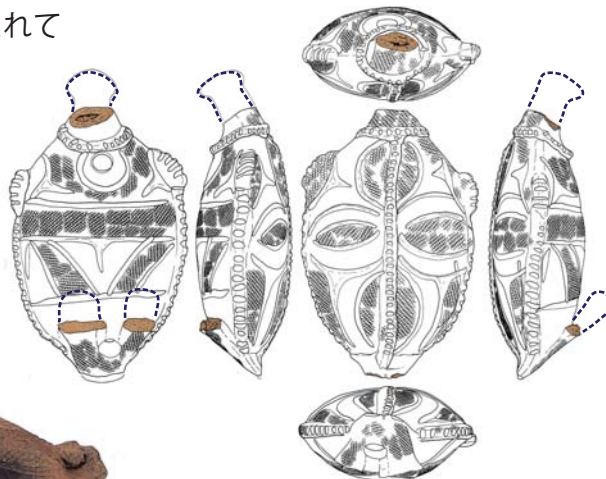
この中でも、後期のムラは北側（---線）に 28 軒、晩期のムラは南側（.....線）に 15 軒存在することが分かりました。特に晩期のムラは最終的には青森県三内丸山遺跡や栃木県寺野東遺跡と同じく、環状盛土状の高まり（---線）を造り、この内側に集落は形成されていたことも分かってきています。

なお、古墳時代の方形周溝墓は、実際にはこの高まりを再利用し、墓域として利用されていた可能性も考えられます。

## 動物形土製品

縄文時代晩期（安行（あんぎょう）Ⅲ a 式土器）  
 頭部と足を欠損するもので、首の付け根、腹部の境及び背中には刻みを持つ隆帯が巡ります。腹部には円孔が 2ヶ所穿たれています。体部表裏面には縄文と沈線により文様が描かれ、沈線内と刻みには赤色顔料が観察されます。

皆さんはどのような動物を想像されるでしょうか。



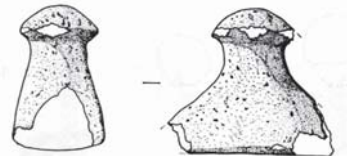
## 壺形土器

縄文時代晩期  
 （安行（あんぎょう）Ⅲ c 式土器）

胴部は点列と沈線により、横位に 2 段に区画され、口縁部及び底部は無文帯としています。区画内には縄文と沈線により文様が描かれています。

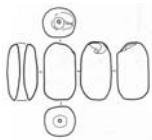


## 石冠（粘板岩）縄文時代晩期

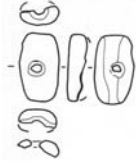


縄文時代後期後半から晩期にかけて、岐阜県を中心に東日本から多く出土する石器です。名前は、冠に似た形（上部が尖っていて、下部は直方体・鏡餅状の形をしている）をしている石器をまとめた総称です。用途は諸説ありますが、最も有力なのは男性の生殖器を模して作った祭祀具であるとする説です。

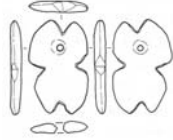
ヒスイ製管玉



蛇紋岩性白玉



垂飾



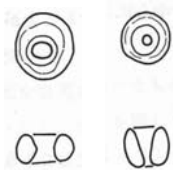
製塩土器 縄文時代晩期

厚さが通常の縄文土器と比較すると非常に薄い作りで、色調も赤褐色のものが多く見受けられます。

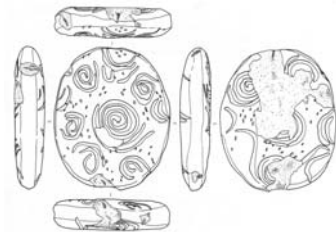
通常の土器との違いはこの部分にあり、赤色は製塩作業のために土器が2次焼成を受けたためと考えられます。

垂飾 縄文時代晩期

現在でも宝石として珍重されるヒスイや何かの形を模写したような装飾品も発見されています。



垂飾品  
(ヒスイ製)



土版(どばん)  
縄文時代晩期  
表裏面に渦巻状の文様が全体的に描出されています。

独鈷石(どっこいし) (安山岩) 縄文時代晩期



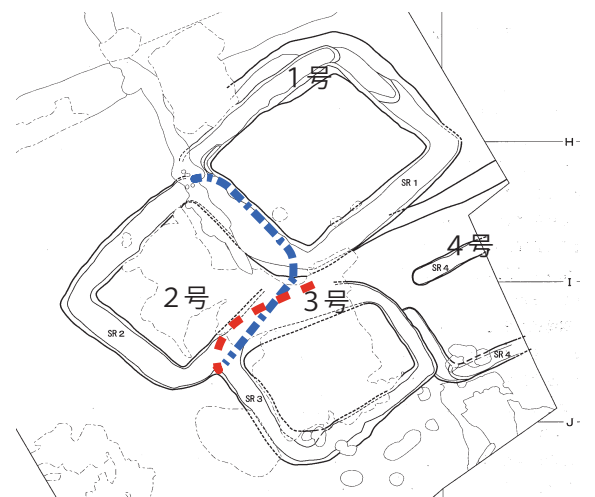
東日本に多い石器で、名前の由来の「独鈷」は、密教法具の「独鈷(どっこ)杵(しよ)(金剛杵(こんごうしよ)の一種)」に類似した形から『独鈷石』と呼ばれています。用途は「非実用的(非日常的)な用途に用いられた石器」で「祭祀行為に用いた道具」ではないかと推測されています。

## 古墳時代初頭の久台遺跡のムラ

久台遺跡の方形周溝墓は、県の発掘調査で初めて4基が発見されていましたが、西へ約30mの蓮田市の発掘調査(第9調査地点)で新たな方形周溝墓が発見されました。

方形周溝墓は、図のように隣接するもので1辺の溝を共有し合うこと(赤・青線)が多く、蓮田市の調査でも同様なことが推測できます。これにより方形周溝墓は、少なくとも東西2つの墓群が存在することが分かりました。

なお、実際のムラは谷を隔てた南側(ささら遺跡)に存在し、現在までに38軒の同時代の住居跡が発見されており、久台側は墓域として利用されていたと言えるでしょう。

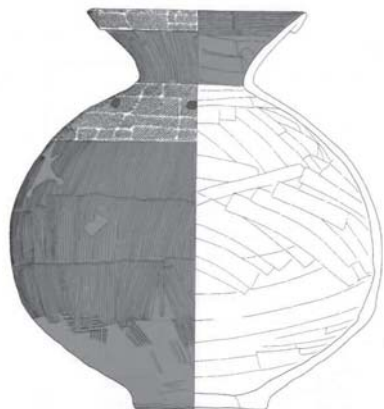


### 1号方形周溝墓群

3号方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ) 古墳時代初頭【左】

3号方形周溝墓は、長軸12.6m、短軸8.9mを測り、平面形態はやや歪んだ台形の形状をします。

周溝からは、赤彩された壺3点(展示は1点)が出土しています。1点は口縁部と胴部上半に縄文が施され、この部分のみ赤彩がありませんが、胴部の縄文上には円形に赤彩が観察されます。



2号方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ) 古墳時代初頭【右】

2号方形周溝墓は、長軸14.3m、短軸11.7mを測り、平面形態は隅丸長方形の形状をします。

周溝からは、赤彩された壺2点、小型鉢1点が発見されています。小型鉢は全体を磨かれ、赤彩は全面に施されています。壺2点は口縁部と胴部上半に縄文が施され、この部分のみ赤彩がありません。

